

1 . 件名 : 「国立研究開発法人日本原子力研究開発機構高速実験炉原子炉施設
 (「常陽」) の設置変更許可申請のうち地震等に係る事業者ヒアリン
 グ (4) 」

2 . 日時 : 令和 2 年 1 2 月 2 1 日 (月) 1 0 時 3 0 分 ~ 1 1 時 5 5 分

3 . 場所 : 原子力規制庁 9 階耐震会議室

4 . 出席者

原子力規制庁

地震・津波審査部門

小山田安全規制調整官、江寄企画調査官、三井上席安全審査官、
中村主任安全審査官、佐藤主任安全審査官、永井主任安全審査官、
菅谷技術研究調査官、磯田係員、松末技術参与

研究炉等審査部門

小舞管理官補佐、有吉上席安全審査官、片野安全審査官、山田
係員

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構 建設部 次長 他 7 名

同 大洗研究所 高速実験炉部 部長 他 5 名

同 安全・核セキュリティ統括部

安全・核セキュリティ推進室 技術主幹

: テレビ会議システムによる出席

5 . 要旨

(1) 国立研究開発法人日本原子力研究開発機構(以下「JAEA」という。)から、
平成 2 9 年 3 月 3 0 日に申請、平成 3 0 年 1 0 月 2 6 日に一部補正の大
洗研究所(南地区)高速実験炉原子炉施設(「常陽」)(以下「常陽」という。)
に関する原子炉設置変更許可申請のうち、基礎地盤及び周辺斜面の安定
性評価に関するコメント回答について説明があった。

(2) 原子力規制庁から、JAEA に対して、以下の事項について事実確認をした。

地下水位観測データにおいて、120 孔の地下水位が高い理由について

B-2-1 孔の観測期間及び観測状況について

原子炉施設、とくに抑止杭設置予定位置及びその周辺(埋戻土)における降雨の排水或いは浸透状況について

地下水位観測孔の柱状図及び観測設備について

B-B' 断面図及び C-C' 断面図における海岸位置或いは水位勾配について

夏海湖の現場透水試験結果の一覧表における備考欄について

夏海湖のブランケット以浅の火山灰質粘土(ローム)等の透水性状について

(3) JAEA から、確認事項に対し、以下の回答があった。

基本的に東側(海側)に地下水位が傾斜しているため、120 孔の地下水位が高いと考えており、より西側の試験研究用等原子炉施設(JMTR)近傍の No.94 孔の水位も同様の傾向を示している。

常陽の原子炉建物の建設後から観測しており、観測期間中に観測状況の変化はない。

敷地内は基本的にアスファルト舗装等が設置されているが、降雨が地表面に浸透しにくいことが分かるように写真等を追加する。

当該資料には地下水位観測孔の柱状図を示していないので、柱状図を提示し、地質及び地下水位を説明する。また併せて、ストレーナ等の設備構造図を追加する。

記載が分かりづらいため、断面図内に海岸位置或いは水位勾配を追加する。

備考欄には現場透水試験を行った位置のブランケット材料に使った土質材料名を記載している。

夏海湖の湖水が地下へ浸透を抑制している T.P.+27m 以浅の火山灰質粘土（ローム）等の透水係数及びその設定根拠（試験法等）を追加する。

(4) 原子力規制庁から、JAEA に対して、本日の事実確認に基づいて、必要な資料の適正化については検討して頂くよう求めたところ、審査会合における指摘の趣旨及び本日の確認内容を踏まえ JAEA から資料の修正をしたい旨の回答があった。

(5) 引き続き、JAEA から、同原子炉設置変更許可申請のうち、敷地の地質・地質構造に関するコメント回答について説明があった。

(6) 原子力規制庁から、敷地の地質・地質構造については、資料内容を確認した旨を伝えるとともに、審査会合にて当該資料を説明するよう求めたところ、JAEA から了解した旨の回答があった。

6. 提出資料

- ・大洗研究所（常陽） 敷地の地質・地質構造について（コメント回答）
- ・大洗研究所（常陽） 耐震重要施設の基礎地盤及び周辺斜面の安定性評価について（コメント回答）
- ・大洗研究所（常陽） 地震・津波等に関するコメントリスト